

長野県の植物覚え書き

今井 建樹

Kenju Takahashi : New and noteworthy plants in Nagano Prefecture

1. エゾホタルサイコ

Bupleurum longeradiatum subsp. *sachalinense*
var. *elatus* Kitag. var. *sachalinense*

1997年8月7日霧ヶ峰でホタルサイコといささか異なるもののあることに気付いた。調べて見るとエゾホタルサイコだと分かった。

図鑑によると北海道・樺太・ウスリーに産し、ホタルサイコより壮大で、小総苞片は大きく、小花柄より長いとあった。草丈は2m近くもあり、小総苞片は幅2mm長さ5mmで、鋭尖頭、明らかに小花柄より長いことが分かった。茎は中空で太く、茎葉も幅が大きく、基部は広がって茎を大きくだしている。茎は何回も細かく分枝し、ホタルサイコよりも長い花柄の先に花序が付いている。全体的に壮大で肥満型の感じで、花序は最初のうちはかたまっているが開花するにしたがって花柄が伸びて分散し、まばらに付いているように見える。ホタルサイコに大変よく似ているので今まで見逃していたのではないかとも思われる。注意して観察すればあちこちから見つかるかも知れないが、少なくとも長野県では初採であり、恐らく南限ではないかと思う。清水建美博士に同定を願い、長野県植物誌に補遺として記載された。記して深謝致します。(19ページカラー写真参照)

標本 長野県諏訪市霧ヶ峰踊場湿原 1540m(今井建樹 1997.8.7 SHIN185430)

2. トイシエンレイソウ

Trillium smallii f. *album*

1997年6月22日三伏峠の標高2600mの針葉樹林下で確認した。本種は北海道の砥石山で見つかったもので、萼が淡緑色で雄蕊の葯が白いのが特徴である。子房が暗紫色のものと淡緑色のものがあるようである。三伏峠

のものは後者であった。本県では記録されてはいないかと思われるので、ここに報告する。なお「山に咲く花」(山と溪谷社1996年)には上高地で1989.5.19に撮影された写真が載っている。注意して見れば各地で発見できるのではないかと思う。(19ページカラー写真参照) 長野県植物誌にも記載がないのでここに報告する。

標本 長野県下伊那郡大鹿村三伏峠 2600m(今井建樹 1997.6.22 SHIN185429)

3. シロバナネコヤマヒゴタイ

Saussurea modesta Kitam. f. *albiflora* Sugimoto

霧ヶ峰の車山湿原で1997年8月6日に発見する。長野県植物誌にも載っていないので本県では初採であると思われるのでここに報告する。

母種の霧ヶ峰産のものは1932年に飛田広氏によって発見され、北村四郎氏はキリガミネトウヒレン *Saussurea kirigaminensis* Kitamura として発表している。発表時にはネコヤマヒゴタイとは茎はやや単一、頭花が多数集まって付き、葉の上面有毛の点で異なり、キリシマヒゴタイに似るも、葉に欠刻なく、披針形であることで区別できるとされていた。しかしその後ネコヤマヒゴタイに合一されて、キリガミネトウヒレンの名は現在ネコヤマヒゴタイの別名とされた経緯をもっている。

霧ヶ峰で見られた白花品は形態的には異なる所はないが、花色が紫色であるのにたいして白色、総苞と茎が紫褐色を帯びるのにたいして淡緑色であることが異なり、葉の色も淡緑色であった。杉本検索誌によれば本種は本州(遠州)産となっている。

(19ページカラー写真参照)

標本 長野県諏訪市霧ヶ峰車山湿原 1790m
(今井建樹 1997.8.6 SHIN185428)

4. ケマアザミ (マアザミとノハラアザミの間種)

Cirsum pilosum Kitam.

1997年8月6日八島湿原を調査中、キセルアザミの頭花の点頭していない一群のあることに気づいた。よく調べて見ると次のようなことからケマアザミと呼ばれているものであることが分かった。本県では既に東筑と下諏訪町(横内斎信濃植物誌)にあるように報告されているが、長野県植物誌には記載されていないのでここに報告する。

キセルアザミは茎が花茎状で頭花は通常点頭するのに、本種は直立するか、やや点頭気味のものもあった。根出葉は中肋が紅紫色を帯びていてノハラアザミ型であった。また葉の上面は無毛のものと有毛のものとがあり、下面には何れも蜘蛛毛がありこの点もノハラアザミ型である(キセルアザミは何れも無毛)。ここからケマアザミの名が出たものと思う。総苞片にも蜘蛛毛がありキセルアザミと異なる。

マアザミの分布は図鑑などでは本州・四国・九州に普通とあるが、本県の分布はどの様になっているのだろうか。長野県植物誌によると標本は下伊那郡の阿南町・根羽村木曽郡の山口村と諏訪市の霧ヶ峰八島湿原だけ引用されている。県南部の標高900m以下の暖温帯に多く分布していて、霧ヶ峰の様な1500mを越える亜高山帯に見られるのは特殊の分布ではないだろうか。諏訪地方では霧ヶ峰の三湿原とも多産するが、低地の湿原などでは見ることができない。この様な標高の高い所の分布と長野県内の分布状況を調べて見るとおもしろい結果が出るのではないだろうか。(19ページカラー写真参照)

標本 長野県諏訪市霧ヶ峰八島湿原
1570m(今井建樹 1997.8.6 SHIN185427)

5. セイヨウタンポポ *Taraxacum officinale* Weber の総苞の外片について

タンポポ属の検索では総苞の外片が反曲し

てたれさがるのは本種だけで、他の種は総て反曲せず多少開出してもたれさがらないとされている。シロバナタンポポやヤツガタケタンポポ等は後者の例である様に観察している。

1997年5月31日霧ヶ峰の踊場湿原のあしくらの池(標高1550m)近くの草原で反曲しないタンポポ1株にであった(19ページカラー写真参照)。かつて小泉秀雄氏がキリガミネタンポポとして発表されたものはこの付近に多く分布していたといわれていることから、もしやと思いその文献を調べて見た。ところがその記載はこれとは全然違うことが分かった(キリガミネタンポポなるものは現在認められていない)。総苞片の配列などからあるいはミヤマタンポポの可能性も考えた。

ところが秋の11月8日に茅野市の永明寺山(標高凡そ1100m)に登ったところ、これと同じ形態をしたタンポポの一群が眼にとまった(19ページカラー写真参照)。ここは公園をつくって芝生を植えた中であつた。秋になって花の咲くことと、環境からみてどうしてもこれはセイヨウタンポポ以外のなものでもないだろうと思った。大部分のものは反曲してたれさがることなく、多少開出している程度のものが多かった。やや離れた所には典型的なセイヨウタンポポもみられた。

そこでセイヨウタンポポの多い諏訪湖畔で同じ日に調べて見ると大部分は典型的な反曲してたれさがらぬものであつた。しかしその中に非常にわずかではあるが反曲しないものもあることが分かった。そこでこれらの反曲しないものの総苞片を詳しく調べた結果、総てセイヨウタンポポであると言う結論に達した。

以上の観察から反曲しないものが多く出る系統のあること、よく注意すると典型的な型の中にも反曲しないものが僅かに混じることが分かった。この傾向は秋咲きのものに多くでるのではないかと予想できる。春の花の時期に更によく調べて季節の違いがあるかどうか確認したいと考えている。いずれにせよセイヨウタンポポのなかにも総苞の外片の反曲しない例外のあることを念頭におく必要があるだろう。

標本 長野県茅野市永明寺山1100m(今井建樹 1997.11.8 SHIN185426)

6. ニシキゴロモ *Ajuga yezoensis* Maxim. について

キランソウ属の検索表によると、ニシキゴロモとタチキランソウは非常に近似なもので多くの検索表は凡そ次のようになっている。

茎は直立。花は淡紫色または白色、背面で長さ10～11mm……………ニシキゴロモ

茎は斜上またははう。花はるり色、背面で長さ13～16mm……………タチキランソウ

木曽谷南部の妻籠国有林と賤母国有林で観察したニシキゴロモは次のような二形であった。両者とも花はるり色で濃色、妻籠では葉の表面に葉脈に沿って赤紫色の斑が入り(19ページカラー写真参照)、賤母のものは葉の表面に斑はなかった(19ページカラー写真参照)。いずれも葉の裏は紫色を帯び花長は10mm前後であった。幾つかの写真集を調べて見た結果、何れに載っているニシキゴロモも淡紫色花であった。ただ奥原弘人「信州の野草」には木曽谷のこの濃色のものがニシキゴロモとして載っている。これらから見て木曽南部のものは、形態や花の大きさからしてニシキゴロモそのものであるが花色だけが特殊であると考えられる。こうしたものが他の地域にもあるとすれば検索表は訂正されなければならない。しかしこれが地域性をもった特殊のものであるとすれば品種とすべきものであると思う。そこで現時点では後者をとってキソニシキゴロモ *f.kisoensis* K. Imai としたい。

標本 長野県木曽郡南木曽町妻籠国有林700m(今井建樹 1997.4.26 SHIN185425)

長野県木曽郡山口村賤母国有林400m(今井建樹 1997.4.26 SHIN185424)

Ajuga yezoensis Maxim. *f.kisoensis* K. Imai, *f.nov.*
Flores lavenduli, cetera ut in typo.

Type: honshu, Nagano Pref., Nagiso-machi,
Tsumago (K. Imai, 1997.4.26, SHIN185425)

ニシキゴロモの変種にツクバキンモンソウ
var. tsukubana Nakai(19ページカラー写真参照)がある。これは花冠上唇がごく短く1

mm位で半円形となるもので花色は淡紫色である。これは多くは見落とされていてニシキゴロモとして報告されていることが多いと思われる。各地にあると思われるので再確認をしたい。長野県植物誌に未記載なのでここに報告する。

標本 長野県飯田市山本土橋580m(今井建樹 1995.5.12 SHIN185423)

長野県北佐久郡御代田町浅間山登山口1500m(今井建樹 1995.6.7 SHIN185422)

参考までにタチキランソウ *Ajuga makinoi* Nakai(19ページカラー写真参照)を載せておく。これは下伊那南部のもので、この地方の各所で確認できる。これもニシキゴロモやキランソウと混同されがちである。なおタチキランソウは検索表どうりの花色であった。

おわりに

本文を記載するに当たって、井上健、坂本圭司、池田登志男、山田達朗の各氏そのほか多くの方々に大変お世話になりました。ここに記して深謝致します。

参考文献

- 北川政夫 1982 セリ科 日本の野生植物Ⅱ 平凡社 280
- 畦上能力・永田芳男 1996 山に咲く花 山と溪谷社 436
- 本田正次・飛田 廣 1941 霧ヶ峰の植物 厚生閣 202-204
- 杉本順一 1978 日本草本植物総検索誌双子葉編 井上書店 480-481 709
- 大井次郎 1965 日本植物誌顕花篇 至文堂 1374
- 横内 斎 1983 信濃植物誌 信濃植物誌刊行会 208
- 長田武正 1976 原色日本帰化植物図鑑 保育社 1
- 小泉秀雄 キリガミネタンポポ 植物研究雑誌 第12巻第10号 717-720
- 村田 源 1981 シソ科 日本の野生植物Ⅲ 平凡社 74
- 清水建美監修 1997 長野県植物誌 信濃毎日新聞社



エゾホタルサイコ 霧ヶ峰1997. 8. 7



シロバナネコヤマヒゴタイ
霧ヶ峰1997. 8. 6



トシエンレイソウ
三伏峠1997. 6. 21



セイヨウタンポポ
茅野市永明寺山1997. 11. 8



セイヨウタンポポ 霧ヶ峰1997. 5. 31



ケマアザミ 霧ヶ峰1997. 8. 6



キソニシキゴロモ (新称)
木曾山口村賤母1997. 4. 14



キソニシキゴロモ (新称)
南木曾町妻籠国有林1988. 5. 1



ツクバキンモンソウ
御代田町浅間山麓1995. 6. 7



タチキランソウ
下伊那郡上村日影岩1995. 5. 20